

今までの治療はなんだったのか？
アトピーとは、一体どんな病気なんだろう？
何が原因なんだろう？
その答えは松本医院の HP にあります。

「間違ったアトピー治療の結果」 黒川正樹 38歳

2016年5月31日

「アトピーは治らないのか・・・。」そう絶望しかけたとき、ネットで松本先生のことを知りました。先生の理論を何度も読み、初めて自分の体に起こっていることを知りました。今までの治療はなんだったのか。ステロイドを盲目的に塗り、一喜一憂して、気が付くと少しずつ悪くなっていました。松本先生の治療を受け始めて2年、数値もピークを越え、治療途中ではありますが、今後自分と同じような方が少しでも減ってくれればと思い、手記を書かせていただきます。

小さい頃から乾燥肌で、いつも体のどこかをポリポリ搔いておりました。学生時代はスポーツをしており、汗をかくと肘裏とおなか、股下が痒かったのですが、あせもだろうと思い特になにもしていませんでした。(今思うと、完全に湿疹でしたが。) 社会人になり3ヶ月経った頃、全身に湿疹ができ、近くの皮膚科に行くと、原因はストレス。大量のネリゾナを処方されました。(初めてのステロイドでした。) この時点でアトピーという認識は全くありませんでした。その後6～7年間、残っていたネリゾナを月に1、2度肘裏にできる湿疹に少し塗って治すことを繰り返しておりました。生活上、特に困ることもなく過ぎていきました。

転機は、娘が2歳になった頃、軽いアトピーが出始めたことです。自分のことならまだしも、子供、特に女の子に肌トラブルが起こっては、と思い、早く治してあげたい一心で、大きい病院の皮膚科を親娘で受診するようになりました。痒み止めと保湿、ステロイドを処方されました。2年ほど経ち、よくなるどころか、だんだん悪くなっているように感じました。アトピーとは、症状をコントロールしていく病気なんだろう？根本的に改善していくことは出来ないのだろうか？疑問、疑念が膨らんでいきました。

そんな時、京都の高雄病院を知人から紹介してもらいました。その知人は今

から20年以上前ですが、漢方と断食入院にてアトピーが治ったということでした。(後から聞いたのですが、その方はステロイドの使用を拒み続けていたそうでした。)
「ここしかない!」と思い受診しました。漢方と保湿、ステロイドの併用でした。特にステロイドは使用量をコントロールしていけば、これほどの良薬はない!とのことでした。湿疹がひどくなれば使う。落ち着けばすぐやめる。またひどくなれば、以前より量を減らして使う。これを繰り返して、徐々にステロイドを抜いていくということでした。実際、少しずつ良くなっていきました。娘は2年もすると、すっかり良くなって治療が終わりました。その後も湿疹も出ず、本当に治ったと、喜びました。

私の方は、3年ほどして、ステロイドを完全にやめることが出来ました。当時は、やっと終わったんだ!と安堵していたのを覚えています。しかし、1ヶ月ほどすると、全身に強烈な痒みを伴う大きな吹き出物が出てきました。どこか内蔵が悪いのでは?と心配し、近くの病院を受診。なんと、ステロイドを処方されました。アトピーはもう治ったと思い込んでいますので、まさかリバウンドだとは想像すらつきませんでした。

今までの治療はなんだったのか?

アトピーとは、一体どんな病気なんだろう?

何が原因なんだろう?

その答えを求めているうちに、松本先生のHPにあたりました。今までの疑問、アトピーのメカニズムに明快に答えていただける、本当に素晴らしいものでした。治療を始めて、リバウンドは、想像以上でした。もともとひどいアトピーではなかったと思っていましたので、軽く考えていました。2週間は、高熱と強烈な痒み、全身がパンパンに腫れ、黄色い汁がたくさん出ました。子供たちも一緒にお風呂に入ったので、表面上治っていたように感じていた娘も、湿疹が体中に出ました。小学校に入学したばかりで、恥ずかしいのと痛いのと痒いので、毎晩泣き叫んでいました。どうしてやることもできず、また、原因の半分は間違った治療を選択してしまった自分であるという思いが、本当に辛かったです。特に子供には、よかれと思って、せっせとステロイドを塗っていました。また、風邪の時は早く良くなるようにと、抗ヒスタミン系の薬などをせっせと飲ませていました。

今、その時のツケを払っているのかもしれませんが、なんともやり切れない気持ちになります。初めから、もっと普通に、正しい治療がどこでも受けられるようになっていけば、そもそもこんなにひどくはないはずなのに。あともう少し、先生の治療を続けていきたいと思います。